

平成 25 年度第 1 回自治体等 FM 連絡会議報告

自治体等 FM 連絡会議代表幹事：流山市財産活用課 寺沢 弘樹

平成 25 年 7 月 25、26 日の両日、会津若松市生涯学習センター（通称：会津稽古堂）で平成 25 年度第 1 回自治体等 FM 連絡会議が開催されました。

今回は昨年度の倉敷市に引き続き 2 回目の地方開催でしたが、「東北に集結！全国の FM/公共 FM と PPP」をテーマに 2 日間のべ 288 名（1 日目：140 名、2 日目：148 名）が参加し盛会となりました。

初日の 25 日は、代表幹事にはじまり会場を提供いただいた会津若松市の田辺賢行副市長、会議運営を担当いただいた福島県総務部の鈴木正晃部長、そして公共建築の FM と保全ネットワーク運営委員会の山本康友委員長から挨拶をいただきました。

その後、事例発表では岩手県大槌町の小永井耕一氏から「大槌町における復興と FM」と題して FM の視点を取り入れた東日本大震災からの復興の取組みについて、その後の先進自治体の事例発表では、青森県庁の村中大祐氏から「青森県における FM～施設の利用調整と省エネ」と題して公共施設の利用調整や財産管理課を中心とした省エネの取組みが、東京都武蔵野市の長岡佳弘氏から「武蔵野市における FM の取組み」と題して建築的視点から FCI の指標を用いるなど計画保全を実践する事例が、静岡県浜松市の松野英男氏から「FM による浜松市における資産経営の取組み」と題して、資産評価に基づき積極的に統廃合・貸付・管理主体の変更を含む資産経営を推進する取組みが発表されました。

その後は、上記の 4 事例について分科会形式で、参加者が自らの自治体での実務上の実態や悩みを交えながら熱気あふれる意見交換が行われました。

2 日目の 26 日は、PPP を中心にした事例として愛知県西尾市の鈴木貴之氏から「西尾市の FM と PPP の進め方」と題して、基本方針・施設白書づくりから丁寧に FM を進めていく取組みと FM を進めるうえでの考え方が、千葉県流山市からは「流



山市における FM と PPP」と題して、他自治体のアイデアを生かし民間企業と連携して小さな事例を実践する取組みが報告されました。初日と同様、事例発表の後には分科会形式で意見交換が行われました。

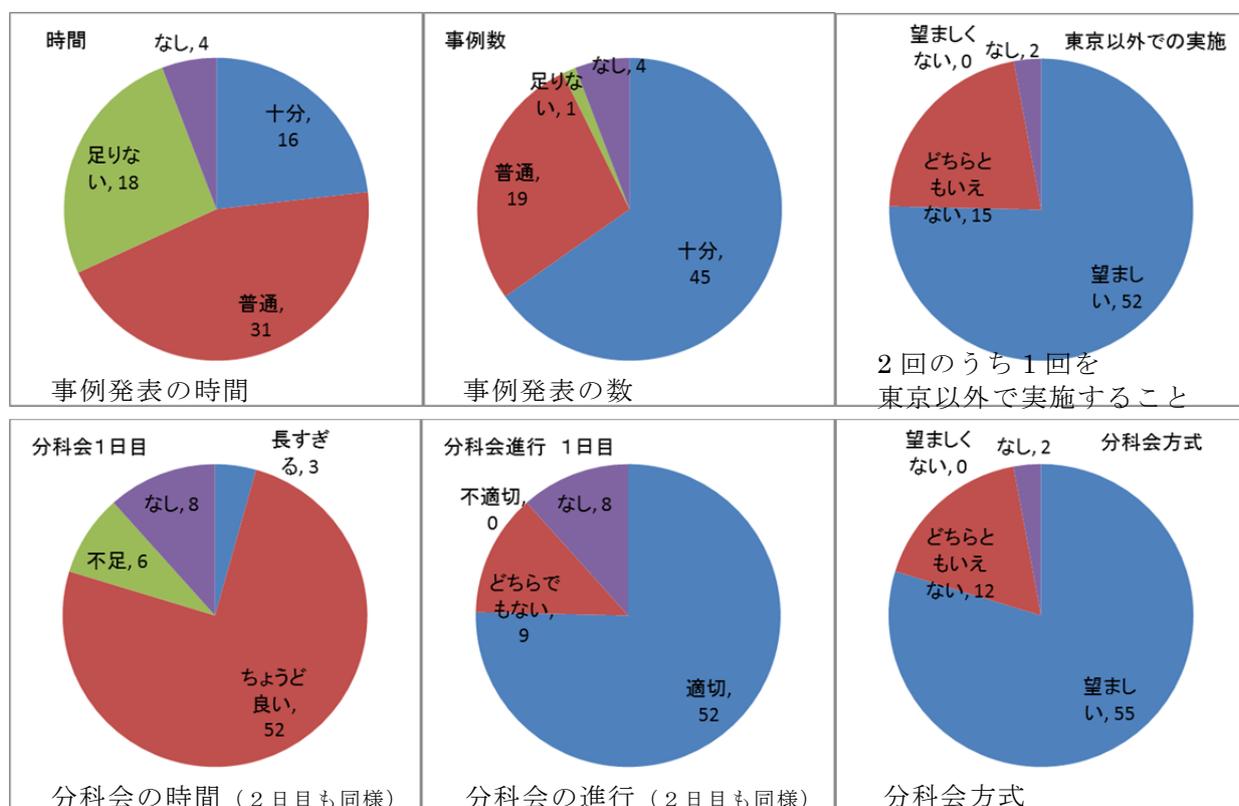
今回は1月下旬から2月上旬にかけて東京で開催すること、そして平成26年度第1回は7月下旬に宮崎県宮崎市で開催されることが報告され、宮崎県宮崎市の原田公之氏から来年度の会場市としての抱負と案内がなされ閉会となりました。

この連絡会議は、通常の会議と異なり「聞くだけでなく参加する会議、本音ベースで意見交換をする場」として公共FMの進展と自治体間のネットワーク構築に大きな役割を果たしており、今後、更に多くの自治体等の参加を期待しています。

【事務局（建築保全センター）より】

今回の開催後、幹事より依頼のあったアンケートをお願いしたところ、多くの方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

結果は以下のとおりとなりましたので、ここに報告いたします。



発表された自治体に対して、わかりやすい説明で、取り組みや進め方が参考になった、という意見を多くいただきました。分科会に関しては、細かい点までよくわかった、生の声を聴くことができ、他の自治体の疑問点、課題を知ることができ参考になった、理解を深めるうえでこの方式は有効だと感じた、などの多くの意見のほか、他の分科会にも参加したかった、時間が限られているのでテーマを絞った分科会としてはどうか、参加者間の意見交換もできるような会場設定ができないか、などの建設的な意見をいただきました。さらに、全体を通して、充実した有意義な会議だった、継続してほしい、という多くの意見をいただきました。このほか、貴重な意見を多数いただいております。